

ICAS って何？

ICAS とは、地球変動適応科学研究機関
(Institute for Global Change Adaptation Science)の略称。

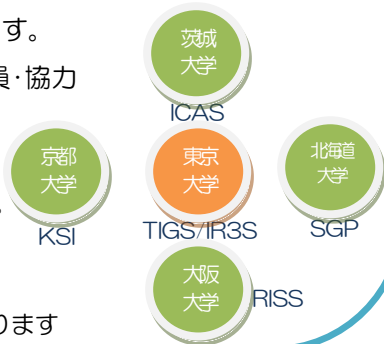


←本部はこちら
環境リサーチラボ棟
1階奥の部屋です。
特任研究員とスタッフ
が常駐しています。
(放送大学の建物です)

平成 18 年 5 月に発足。IR3S(サステナビリティ学研究連携機構)*参加 5 大学のうちのひとつ。ICAS は「気候変動への適応」を中心に据え、サステナビリティ学*の研究と教育を進めています。

ICAS は約 60 名の兼務教員・協力教員・スタッフにより構成されています。全学部参加型のまったく新しい研究プロジェクトです!!

*用語の説明は裏にあります



ICAS 活動報告

2月26日～28日 国際シンポジウム in Hawaii

ICAS からは 8 名が参加。社会科学と自然科学の対話というテーマのもと、様々な分野から科学者たちが集い議論を行いました。2日目の第5セッションでは、大辻永助教授(教育)と Do Minh Duc ICAS 特任助教授が、“Traditional wisdom and Disaster” (伝統的な知恵と災害)というテーマのもと発表されました。



会場:プリンセススカイウラニホテル(Honolulu, Hawaii)

3月27日 ICAS サステナフォーラム開催

平成 18 年度の ICAS での活動を報告するとともに平成 19 年度の活動計画を発表。最後は、「サステナビリティ学」の概念について熱い議論が繰り広げられました。

第 2 回 ICAS サステナフォーラムは 5/11(金)開催予定!
会場:茨城大学水戸キャンパス茨苑会館 2 階集会室 7

ICAS ロゴ決定!!

ICAS のロゴが決定しました!原作者は茨城大学大学院都市システム工学の鈴木崇之さんです。シンプルかつ印象的で素敵なロゴをありがとう!



ICAS/IR3S calendar 2007

4月	新年度スタート	10月	大学院講義スタート 中旬 第4回 ICAS サステナフォーラム IR3S 10/18 北九州シンポ(専門家会合) ~20 「アジアの循環型社会の形成を目指して」
5月	初旬 ICAS ゼミスタート 5/11(fri) 第2回 ICAS サステナフォーラム IR3S 5/30 中国浙江大学シンポ ~6/2 「循環経済と持続可能な社会」	11月	
6月	IR3S 初旬 インド Office 開設(ws 開催) 6/9(sat)「サステナビリティ学入門」第1日 6/23(sat)「サステナビリティ学入門」第2日	12月	教育国際シンポジウム in Mito
7月	7/7(sat)「サステナビリティ学入門」第3日 IR3S 中旬 IR3S ワークショップ in Japan	1月	
8月	初旬 第3回 ICAS サステナフォーラム	2月	IR3S 公開シンポジウム
9月	IR3S 9/18 エネルギー持続性フォーラム ~19 with IARU 9/20(thu) ベトナム・日本国際シンポジウム ~22(sat) in Vietnam 地域サステナワークショップスタート	3月	地域サステナシンポジウム in Mito

*網掛けは継続される企画です
*予定は変更になる場合があります
*予定は毎月掲載されます

ICAS の予定に関するお問い合わせは ICAS 本部まで
icas@mx.ibaraki.ac.jp



ここは、ICAS のメンバーが毎回様々な話題をわかりやすく解説したり主張したりするコーナーです。第1回は ICAS 兼務教員の小峯秀雄工学部助教授がご協力くださいました。ここを読んでサステナブル知識をためていこう!!

パラダイムの転換「廃棄物」から「排出資源」へ

皆さんは“廃棄物とはどんなもの”とお考えですか。「廃棄物は汚染され、汚いもの」と思っている人がほとんどだと思います。しかし、最高裁判所の通知では「廃棄物とは、占有者が自ら利用し、または他人に有償で売却することができないために不要になったもの」と解釈されています。広辞苑第5版でも「不要として廃棄されるもの」と説明されています。どこにも“汚い”とか“汚染されたもの”という文言は出てきません。しかし実際には「廃棄物＝汚染物」と思っている方が多いと思います。最高裁判所の解釈からすれば、“発生時点”において「誰も必要としないダイヤモンド」や「誰も食べたがらない新鮮なウニ」というものがあれば、その貴重さ、新鮮さにかかわらず、廃棄物になるのです。すなわち、同一の性質を有した物質でも、発生のタイミングによっては廃棄物となってしまうことに問題点を感じざるを得ません(図-1 参照)。

そこで私は、まず第一に“廃棄物”という名称の持つイメージを払拭することが重要と考えました。そこで“排出資源”と改名したいと思います。一般的に、廃棄すると考える以前に「もったいない、何かに使えないだろうか」と考えることが、一般的な環境に配慮した思考であります。その時点では、廃棄物ではなく“排出資源”なのです。このような思考を社会全般に浸透させることが、排出資源有効利用の視点からの持続可能社会の形成につながるものと考えます(図-1 参照)。



図-1 廃棄物から排出資源へ

Environmental News



IPCC(気候変動に関する政府間パネル)の第2作業部会がベルギーのブリュッセルで行われ、政府関係者向けの報告書が承認・公表されました。この会議に、茨城大学教授で ICAS 機関長である三村信男先生が出席されました。興味のある人は三村先生に聞いてみよう!

ICAS の新メンバー紹介



ICAS 特任研究員
田村 誠
たむら まこと

星座:うお座
血液型:A型
趣味:野球・テニス

ひとこと自己紹介

今年3月に東京大学大学院総合文化研究科「人間の安全保障」プログラムの助手から、ICASの特任研究員として着任した田村誠です。同じ北関東の群馬県出身なので茨城県や水戸市は似ていると当初は思っていました。いざ来てみると意外に異なる点が多いことに気付かされます。

持続可能な社会の構築に向けた対応策には正負双方の影響が存在します。そこで、これまでの研究では主に経済学的手法に基づいた環境政策の影響評価を行ってきました。従来は、気候変動問題における緩和策に重点を置いた研究として位置づけられます。さらに、今後は適応策に関する影響評価や概念整理を行っていくつもりです。宜しくお願いします。

サステナ用語集

○サステナビリティ学

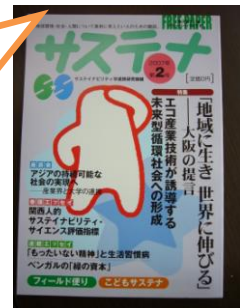
地球温暖化など地球が抱える問題を解決し、持続可能なものへと導くためのビジョンを構築する基礎となる新しい学問。

○IR3S

サステナビリティ学連携研究機構の略称。東京大学を中心に京都大学・大阪大学・北海道大学・茨城大学が参加。さらに協力機関として東洋大学・千葉大学・東北大学・国立環境研究所が参加しています。サステナビリティ学分野における、世界トップクラスのネットワーク型研究拠点です!!

サステナビリティ学連携研究機構(IR3S)より発行されている学術誌「サステナ」、各キャンパスにて配布中。第4号は茨城大学(ICAS)が編集を担当します!乞うご期待!

詳しくは ICAS 本部まで



Editor's note

ICAS News 第1号発行からずいぶん月日がたってしまいました。1号の存在を知っている人のほうが少ないかも……。ということでガラッとスタイルを変えて再出発です。読みやすい ICAS News を目指します。ご意見・ご感想・ご質問、お待ちしております。

By R.H.